



山田早苗コレクション : 第2報

内田, 誠

(Citation)

海事博物館研究年報, 33:13-16

(Issue Date)

2005-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81005638>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005638>



山田早苗コレクション ―第2報―

内 田 誠

前報（海事博物館研究年報 No.32, 2004）に引き続き、『山田早苗コレクション』について概説いたします。2004年10月に山田早苗先生から船舶資料集「山田早苗コレクション」を寄贈いただきましたが、きっかけは1998年1月の関西造船協会（現日本船舶海洋工学会関西支部）新年特別講演会・懇親会の席上にまで溯ります。山田先生がコレクションの寄贈を神戸商船大学（当時）にと願っておられました。懇意にされていた小野政雄氏（元三菱重工神戸造船所）を通じて南波壯八氏（元三菱重工神戸造船所）に適切な人物「継続的に責任を持って資料の管理をできる若者」の紹介を依頼され、南波氏が先の懇親会の席上で筆者に声をかけて下さいました。1998年2月6日には小野氏、南波氏と共に筆者が山田先生のご自宅に伺い、将来的な寄贈・受入について約束いただき、約6年を経て結実しました。寄贈にあたって山田先生が望まれたことは、1)戦争遺族による調査や戦没商船の行動研究等々への積極的な協力と情報提供の継続、2)コレクションの散逸防止、3)第三者による二次利用の防止の3点ですが、同時に、山田先生の意向を最大限尊重しつつ海事博物館の

判断により所蔵品として活用することにもご理解いただきました。

2005年10月に開催された海事博物館一周年記念講演会の第5回講演「山田早苗コレクション」には、山田先生ご本人は残念ながらご出席いた

だけませんでした。一般参加者に混じって山田久子様（奥様）、菅豊子様（妹様、東京より）、山田耕一様（息子様）にもお越しいただき、これまでご本人しか把握されていなかったコレクションの全体像を紹介したところ、執念とも言える偉業にご家族として改めて感心されていました。また、海事博物館内に新たに設けられた「山田早苗コレクションコーナー」では、一つ一つの資料を確認されるように丁寧に閲覧されていました。

紙面を借りて、山田先生、小野氏、南波氏、山田先生のご家族の皆様方に改めて御礼申し上げます。

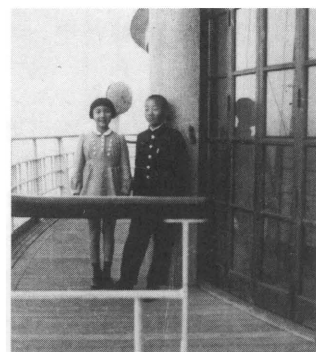


写真 山田先生の少年時代、報国丸船上にて、妹豊子さんと共に

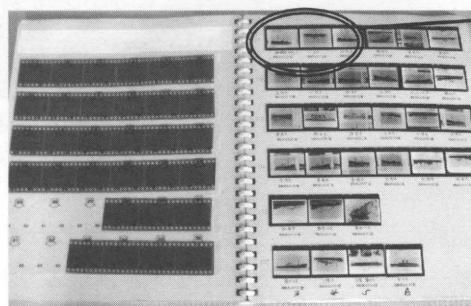
【山田早苗コレクションの構成】 （下線付きゴシック表記はコレクションの核となる資料）

<u>日本の商船隊行動記録集</u> ：S20.8.15.（終戦）までに建造された日本商船で、逓信省の船名録に記載があるものの内、500GT以上の船舶、 <u>約4,600隻</u> の行動記録集		ファイル	20冊
船主別所有船舶写真集		ファイル	11冊
<u>キャビネ版船舶写真集</u>		ファイル	14冊
船舶絵葉書集		ファイル	2冊
<u>船舶写真ネガアルバム</u> （ネガ1,428本、 <u>約8,500コマ</u> ）		ファイル	16冊
<u>船舶模型</u> ：1/600スケール洋上模型		模型船	102隻
船名検索ノート			1冊
船主別写真目録			1冊
日本商船隊の懐古：「船の科学」掲載記事		ファイル	5冊
「船の科学」掲載済船名			1冊
日本船名録：逓信省 明治23年～昭和18年			22冊
日本汽船件名録			3冊
日本貨物船明細書：昭和16年			1冊
ロイド船級録：1936年			1冊
遭難船舶一覧：大正7年			1冊

船舶出航予告表	： 新聞記事 明治20年～昭和16年	18冊
大阪商船出港予定		2冊
戦史叢書	： 防衛庁 朝雲新聞社	49冊
陸軍徴備船舶行動調書		2冊
船舶模型写真	： 浅間・新田丸、吉林・報国・ぶらじる丸ファイル	2冊
船内図	： あるぜんちな・ぶらじる・報国・愛国丸ファイル	1冊
船のパンフレットファイル		2冊
船内食堂メニュー・船内絵はがきファイル		1冊
雑誌「海」	： 大阪商船 昭和2年～昭和17年	多数
雑誌「モーターシップ」	： 昭和13年～昭和14年	23冊
造船所、船会社社史		多数

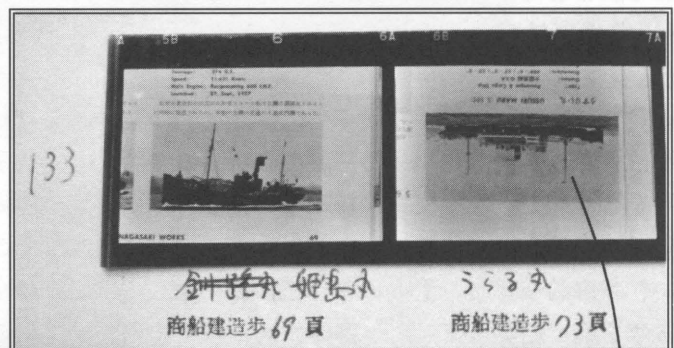
「山田早苗コレクション」の核となる資料「日本の商船隊行動記録集」に掲載されている情報ならびに写真情報について、海事博物館が以前より船模型を所蔵している「うる丸」を一例にご覧下さい。

船舶写真ネガアルバムより (133番ネガフィルム — 第2コマが「うる丸」)



写真ネガ

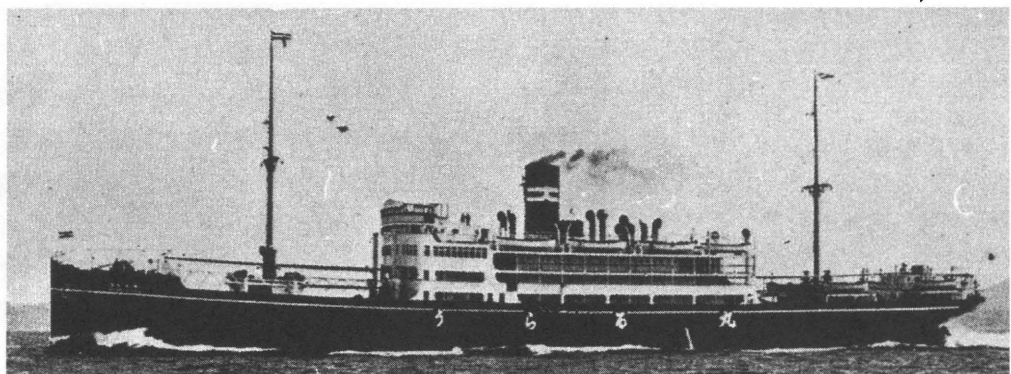
写真ベタ焼き



左写真 船模型「うる丸」

所蔵品写真は海事博物館ホームページにて検索ならびに閲覧が可能です。

下写真 コレクション写真ネガより転載



写真ネガ番号

船主：

太陽船

553 升 ()

u	-	0	7	9
---	---	---	---	---

[illegible]

写真	世界の船1921年66頁	商船建造の歩み 73頁	海 No. 28. 9頁	大阪商船80年史 282頁	近畿海運 (1062-5)
図面	大阪商船パノラマ		模型	神户商船大学本部	

1-800-368-2777

凡

1997

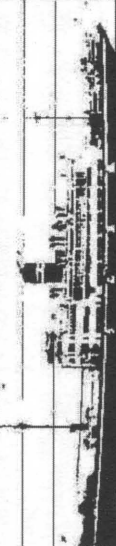
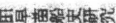
下正末郎から昭和3年頃の大阪商船の大連航路は、170トン級丸、180トン級丸、要英利カド丸、香港丸の4隻によって週2回の発航であったが、日本郵船大連出により航路は増加の一途を辿り新造船の必要にせまられていた。本航路は170トン級の拡大改良型で、上部遊歩甲板最後部に一等特別室があり、テラス、ソープ、椅子と化粧台に洗面とスプリングバット2台の浴室、浴室、便所からなり、その前方面舷部下部遊歩甲板の中突部から一等船客室で、1人部屋6室、2人用22室、3人用4室、子供室となっていた。

上部遊歩甲板の前部から一等談話室で、錦倉時代の武家の宿屋を模して、純日本風の装飾で中中に炬燵あり、電氣ストーブを装備し正面に床を設けて鏡櫃と兜が飾られていた。談話室には花いてバーがあり和洋種々の酒を準備していた。談話室の外にはバーランダーとパティオがあり、あそび屋風の紙日本式でテーブル、椅子、麻雀卓などを備え大型の硝子窓越しに移りゆく景色を自由に展望できた。

下部遊歩甲板の前部は一等倉庫で、日本式に近代フランス様式を加味して和洋両式の特色を帯びた。カノニエンテナの旁の下に6人掛テーブル、6人掛2コ、4人掛2コ、2人掛4コが配置されていた。

二等客室は下部遊歩甲板の後部と上部甲板中央部全部にこれに当てられ、4人部屋、5人部屋、7人部屋、合計21室あり、それぞれ腰板と化粧台、床は一部畳、紙張等張りとなっていた。下部遊歩甲板の後部部に二等談話室があり近代ロイヤル風の装飾であった。二等倉庫は上部甲板の前部で、近代復興式の装飾の大倉庫となっていた。内部は10人掛け長テーブル、4コ、16人掛け長テーブル3コが系統に配置されていた。

3号机室は中甲板の前後にあり全部下床式であつた。天井



一は高く昇降の子供はく上甲板に3等エントランスにはテーブルやソファを置き談話や喫煙の便に供した。
 昭和4年4月12日神戸を出港 大連に向けるが船中の怪につく。
 本船の汽船によし 大連航路は毎月9日10日毎に上陸船で、週2回を、3日に1回の航船とした。又、従来の航
 船航路 長利加丸は昭和4年4月29日神戸を出て、大連航路から撤退した。
 昭和12年10月4日神戸出航 大連を経経して、10月12日神戸着とセキに、陸軍病院船として徴用され、翌13年2月12日
 神戸をより、大連航路に復帰した。

船和16年11月陸軍に徴用して浦戦準備のため船舶輸送司令部戦開司令行に充てて11月25日宇品を出发
12月1日サイゴンに入港した。マ

12月1日 サイゴンに入港した。又
昭和16年12月8日のマレー半島上陸作戦には直接参加しなかった。サイゴン、サマツカ泊りして行軍した。
昭和17年2月19日 一日甲品にもとる。 3月27日に上海へ往後、上海10月甲品を出港して高
雄、リカエン、サイゴン、サイゴン、マニラ、高雄、マニラ、サイゴン、高港を經由して
9月17日甲品にもとる。 9月18日甲品を大連に往後、10月10日甲品をパナマ、マニラ、高雄
に達し、高雄を經由して12月17日甲品に帰る。

昭和18年1月16日 門司航 マラ パオオ、ラバウル、高雄、パオオ、マラ、パオオ、ラバウル、マラ、高雄、基隆を経て 4月29日 門司に帰る。 6月23日 貨品を出口 大連を往復 7月5日 門司航、基隆を往復、7月15日 門司に帰る。 7月17日 門司航、大連を往復 7月23日 門司に帰る。 7月26日 門司航、基隆を往復、8月4日 大連に帰る。 8月8日 門司航、上海を往復 8月19日 大連に帰る。 8月24日 門司航、ココホ、ラバウル、パオオ、マラを経て 10月26日 貨品を、10月28日 門司航、ウエフク 高雄、ラバウル、マラを経て 12月30日 大連に帰る。

昭和十一年一月十六日佐伯を出港 二月一日五バレル満 五の後 パラオ マニラ 基隆
 まで 三月十六日マニラに到着 三月十八日岸泊 基隆を佐伯へして 四月二十日岸泊 基隆
 降ろす佐伯 五月二十七日岸泊にまゝ 五月二十八日岸泊 基隆 七月四日岸泊 基隆
 金山を佐伯 七月二十五日岸泊にまゝ 七月二十六日マニラを出港 高橋 マニラ 七まで 八月二十六日マニラへ
 九月五日マニラへ 九月十一日マニラへ 九月十二日マニラへ 九月十三日マニラへ 九月十四日マニラへ
 九月十五日マニラへ 九月十六日マニラへ 九月十七日マニラへ 九月十八日マニラへ 九月十九日マニラへ
 九月二十日マニラへ 九月二十一日マニラへ 九月二十二日マニラへ 九月二十三日マニラへ 九月二十四日マニラへ
 九月二十五日マニラへ 九月二十六日マニラへ 九月二十七日マニラへ 九月二十八日マニラへ 九月二十九日マニラへ
 九月三十日マニラへ 十月一日マニラへ 十月二日マニラへ 十月三日マニラへ 十月四日マニラへ
 十月五日マニラへ 十月六日マニラへ 十月七日マニラへ 十月八日マニラへ 十月九日マニラへ
 十月十日マニラへ 十月十一日マニラへ 十月十二日マニラへ 十月十三日マニラへ 十月十四日マニラへ
 十月十五日マニラへ 十月十六日マニラへ 十月十七日マニラへ 十月十八日マニラへ 十月十九日マニラへ
 十月二十日マニラへ 十月二十一日マニラへ 十月二十二日マニラへ 十月二十三日マニラへ 十月二十四日マニラへ
 十月二十五日マニラへ 十月二十六日マニラへ 十月二十七日マニラへ 十月二十八日マニラへ 十月二十九日マニラへ
 十月三十日マニラへ 十一月一日マニラへ 十一月二日マニラへ 十一月三日マニラへ 十一月四日マニラへ
 十一月五日マニラへ 十一月六日マニラへ 十一月七日マニラへ 十一月八日マニラへ 十一月九日マニラへ
 十一月十日マニラへ 十一月十一日マニラへ 十一月十二日マニラへ 十一月十三日マニラへ 十一月十四日マニラへ
 十一月十五日マニラへ 十一月十六日マニラへ 十一月十七日マニラへ 十一月十八日マニラへ 十一月十九日マニラへ
 十一月二十日マニラへ 十一月二十一日マニラへ 十一月二十二日マニラへ 十一月二十三日マニラへ 十一月二十四日マニラへ
 十一月二十五日マニラへ 十一月二十六日マニラへ 十一月二十七日マニラへ 十一月二十八日マニラへ 十一月二十九日マニラへ
 十一月三十日マニラへ 十二月一日マニラへ 十二月二日マニラへ 十二月三日マニラへ 十二月四日マニラへ
 十二月五日マニラへ 十二月六日マニラへ 十二月七日マニラへ 十二月八日マニラへ 十二月九日マニラへ
 十二月十日マニラへ 十二月十一日マニラへ 十二月十二日マニラへ 十二月十三日マニラへ 十二月十四日マニラへ
 十二月十五日マニラへ 十二月十六日マニラへ 十二月十七日マニラへ 十二月十八日マニラへ 十二月十九日マニラへ
 十二月二十日マニラへ 十二月二十一日マニラへ 十二月二十二日マニラへ 十二月二十三日マニラへ 十二月二十四日マニラへ
 十二月二十五日マニラへ 十二月二十六日マニラへ 十二月二十七日マニラへ 十二月二十八日マニラへ 十二月二十九日マニラへ
 十二月三十日マニラへ 昭和十一年十二月三十一日マニラへ